

平成30年度第1回広島市スポーツ推進審議会 会議録

I 開催日時

平成30年5月23日（水） 10時30分～12時

II 開催場所

広島市役所北庁舎7階 第2会議室

III 出席者

1 委員 20名中17名出席

大東和委員、河邊委員、菊田委員、倉石委員、小林委員、崎田委員、杉野委員、
玉田委員、中西委員、鍋島委員、東川委員、本川委員、満田委員、山中委員、
山本委員、吉本委員、渡部委員

（欠席：下岡委員、田川委員、土井委員、）

2 オブザーバー 3名中2名出席

上田オブザーバー、木下オブザーバー

（欠席：野依オブザーバー）

3 事務局（市）

市民局長、文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、スタジアム調査担当課長
健康福祉局障害福祉部障害福祉課長、教育委員会学校教育部指導第二課長

IV 公開・非公開の別

公開

V 傍聴者

1人

VI 会議内容

1 開会

2 議事

(1) 副会長の選出について

全会一致で玉田委員が副会長に選任された。

(2) 「広島市スポーツ振興計画」の主な取組状況について（平成29年度実施報告）

(3) 平成30年度の主なスポーツ推進施策及び予算について

(2)、(3)について、事務局より一括して報告があった後、意見交換を行った。

3 閉会

Ⅶ 会議資料

- ・平成30年度第1回広島市スポーツ推進審議会 次第
- ・広島市スポーツ推進審議会委員等名簿
- ・平成30年度第1回広島市スポーツ推進審議会配席図
- ・議事関係資料

議事資料2-1:「広島市スポーツ振興計画」に掲げた推進施策の主な取組状況について（平成29年度）

議事資料2-2:数値目標の進捗状況と今後の方向性について

議事資料3-1:「広島市スポーツ振興計画」における平成30年度の主な取組について

議事資料3-2:平成30年度スポーツ振興関係予算について

参考資料:「広島市スポーツ振興計画」の推進施策体系

Ⅷ 主な発言要旨

〔東川会長〕

平成29年度の実施報告、平成30年度の計画と予算について、ただいま事務局の方から説明いただいたところであるが、委員の皆様からのご意見をいただきたい。

〔本川委員〕

まず2ページ資料2-1の下から2番目に中学校運動部活動活性化支援事業と運動部活動指導者招へい事業があるが、文科省から、新たに部活動指導員制度というのが打ち出されていると思う。今後、この制度について、市の取り組みや既存事業との関係をどのようにしていくのか教えてもらいたい。

〔指導第二課長〕

部活動指導員については、本市への導入ができるかどうかも含めて、今年度、本市において、教育委員会関係者、学校関係者等による意見交換会を開催し、部活動指導員の検討を進めていきたいと考えている。その結果、部活動指導員を導入できるということになれば、資料にある中学校運動部活動活性化支援事業等の指導者も変わっていくことになると考えている。なお、部活動指導員は、引率が出る点が、これまでの指導者と大きく異なるところである。

〔東川会長〕

先ほど指導者に関する質問があったが、今新聞等でも話題になっている問題がある。昨年度実施された競技力向上や運動部の指導者講習の中で、指導者に対する法令順守を研修内容として取り上げているものがあるか。

〔指導第二課長〕

学校の部活動の関係について、回答させていただくと、生徒への指導の在り方については、部活動の顧問に限らず、学校教職員全体に対して、機会があるごとに指導を続けている。また、中体連等の協力を頂きながら、生徒達の指導の在り方については、留意していただくよう話をしている。

〔スポーツ協会事務局〕

競技団体については、競技別指導者養成講習会で技術のことだけでなく、先ほど質問があった内容も含めて実施するよう事務局から依頼している。今年度も指導者倫理の内容も含めた講習を実施するよう依頼している。

〔鍋島委員〕

週1回以上スポーツをする人について、東京オリンピック・パラリンピックに向けて70%を指標として掲げてきたところであるが、平成28年度の実績が44.6%という低い結果であった。昨年度も分析を色々とされてきたが、目標期間まで、あと数年しか無いところで、平成29年度も低い数値が出てはいけないと思っていたところ、29年度の実績が67.1%という結果が出た。最終年度までに70%に上げていくにあたって、29年度の実績が67.1%であったのは、段々と市民意識が高まってきた結果と見ていいのか。そのあたりで、何故、67.1%まで一度に数値が上がったのか教えてもらいたい。

それから、スポーツ庁などが言っているが、幼児の時に色々な遊びをしている子供は、小学校に上がった時に体力が上昇し、活動的になるという結果が出ている。こうした面からすると、幼児の時に、外遊びをすとか、スポーツといってもスポーツの入口のようなところで活動する環境をどのように作っていくか考えてみてはどうかと思う。

次に、週1回以上スポーツをする人の年代別について、30代が一番低い結果となっているが、昨年東京の調査結果では、男性はスポーツをする時間を作っている人が多いのに対して、女性はスポーツをする気になれない、忙しくて出来ないといった理由が上がっていた。広島においても、この辺りが影響して、52.3%の低い数字になったのではないかと思う。こうした人にスポーツをしてもらうには、企業と連携して、職場の中で自転車通勤とか、ラジオ体操をすとかスポーツをする雰囲気を作りながら、スポーツに参加できる環境を整えていく必要があると思う。

次に、高齢者についてですが、広島の高齢者の平均年齢は、男女とも全国で10位以内に入っているが、健康寿命について、特に女性の場合は、健康寿命が73歳で全国ワースト1である。昨年はワースト2であったが、熊本が数値を取れなかったということで、46位になった。広島県全体のことはあるが、広島市も女性の健康寿命は課題ではないかと思う。このことについて、何か考えていることがあれば教えてもらいたい。

それから、高齢者の30分以上健康のために歩く数値についてですが、28年度から29年度を見ると、概ね横ばいの状態になっているように見えるが、70%以上あった過去から見ると下がっている状況である。こうした状況を踏まえると、高齢者についても日

常の中で、また地域の中で、スポーツをしてもらう必要がある。そうすることで、人とのコミュニケーションが出てくるし、体を動かすことにより健康寿命が延伸され、介護を必要とする人も少なくなってくる。超高齢化社会を迎え、介護保険が破たんするのではないかと危惧されている昨今においては、スポーツが果たす役割に対して期待が高まっているのではないかと思う。

〔スポーツ振興課長〕

まず、週1回以上スポーツをする市民の割合について、平成28年度の実績値に対して平成29年度の実績値が増えた理由としては、資料4ページの現状分析の4つ目にあるとおり、スポーツによる健康増進の効果が少しずつ浸透している中、広島東洋カープを始めとするトップアスリートの活躍や、東京2020オリンピック関連イベントの開催により、市民のスポーツに対する関心が高まったことなどが考えられることが一つである。

もう一つの理由としては、週1回以上スポーツをする市民の割合は市民意識調査の結果から取っているものであるが、平成29年度の市民意識調査から、設問にスポーツに該当するものとして、ラジオ体操やウォーキングなど軽い運動を例示として加えた。これは、スポーツ振興計画において、軽い運動もスポーツであると位置付けていることから例示として加えたものであり、このことによる影響も大きいと考えている。資料別紙1表1-2の週1回未満の方のスポーツの実施を妨げている要因を見ても、時間がとれないと回答した人が多いことから、市民の中には、スポーツというのは何か時間を取って、特別な事をやるものと捉えられていたのではないかと推測される。この度、軽い運動を例示として増やしたことによって、この程度であれば実施していると回答した方が増えたため、スポーツ実施率が向上したと考えており、この度の結果は、より実態に近いものではないかと捉えている。

〔杉野委員〕

確かに競技スポーツの振興も大事であるが、我々が一番大事に考えているのは、地域におけるスポーツレクリエーション活動の振興として、小さい子どもからお年寄りまでの生涯スポーツというものを考え、皆さんがとにかく元気で、その地域における明るい生活を送っていただくことである。

広島市では、高齢者いきいき活動ポイント事業を設けているが、これにより、お年寄りの方は、一生懸命外に出て、ラジオ体操を行ったりして、ポイントを貰っている。そういう点でもスポーツレクリエーションを行う人の割合が増えているのではないかと思う。確かに広島は、女性の健康寿命は短く、年寄りの方が多い、そのような中、これから団塊の世代を迎えるにあたって、どれほど高齢者の制度が対応できるか心配しているところである。その点を踏まえると、施設については、お金をかけて大きな施設を作るのではなく、手短に休耕田などを活用して、簡単な公園を作り、その公園で、これからは増えて行く団塊の世代が健康に過ごせるようにウォーキングやグランドゴルフ、外に出てラジオ体操をやれば良いと思う。広島市は他の市に比べて、そういった公園の数が少ない。オリンピッ

クに向けてメキシコが来るのも良いが、広島市民が健康でいなくてはいけないと思えば、やはり市民の健康増進のための施設というのを考えていかなければいけない。だから、そうした施設に少しでも予算を回して、市民の皆さんが外に出て、そして良い空気を吸って、健康になるというようなことも考えていただきたい。確かに競技技術の向上というのは、大切ですが、全体的に考えたら、団塊の世代に入る大人が一番人数としては多いわけですから、そういうところを考えて今後もやっていただきたい。

〔東川会長〕

色々意見はあろうかと思うが、まずは、先ほどの鍋島委員からの高齢者の質問もあったので、杉野委員からの意見も含めて、事務局から説明をお願いしたい。

〔スポーツ振興課長〕

先ほど、週1回以上スポーツをする市民の割合が増えた要因について、説明したところであるが、杉野委員から高齢者いきいき活動ポイント事業も増加した一因ではないかという補足をいただいたと思っている。

続いて、質問があった幼児向けのスポーツについてであるが、本市においては、ベビープログラムを実施している。これは乳幼児とその保護者を対象にした「ベビーヨガ教室」のほか、「親子体操」や「乳幼児のための運動教室」、「幼児と保護者の水遊び体験」などがあり、中区スポーツセンター等7施設で実施しているところである。この事業は、事業対象を乳幼児まで広げることで、親子でスポーツに親しむ習慣を醸成させることを目的としており、スポーツ活動のみならず、子育て世代の交流の場を提供することで、子育てを支援するという側面もある。具体的事例としては、安芸区において、乳幼児のための運動教室ということで、1～3歳児とその保護の方を対象に実施している。

今後ともこうした事業については、ニーズを見極め、ニーズが多いようであれば、増やしていくといったことも検討していきたいと思っている。

それから、健康寿命の延伸に向けて、どのように取り組んでいくかという質問であるが、先ほど杉野委員からもあった高齢者いきいき活動ポイント事業など高齢者施策との連携というのも考えていきたいと思っている。

〔満田委員〕

高齢者のことで、色々と御意見いただいているところであるが、地域の中で活躍しているのは、高齢者だと思っている。地域の中で、高齢者が頑張らなくていけないということで、朝の子どもの見守りや健康に対しての活動など、積極的に活動している。市や区の単位でやろうとしたら二の足を踏む人もいるが、学区を対象にした活動というのは、この度の高齢者いきいき活動ポイントもあるので、非常に盛んで、高齢者の皆さんは出かけるようになってきている。皆さんが心配されているようなことはなく、今まで閉じこもっていた高齢者を誘って皆で出ようということで、学区の中では、それぞれが活動している。私は、西区スポーツセンターをよく利用するが、スポーツセンターの立地が非常に便利の悪

いところにあるため、そこに行って活動するために、車を出せる人に便乗するとか、最終的には色々な人がピストンでスポーツセンターまで運ぶというように皆を誘って出るようにしている。もう少し便利の良いところであれば、参加者はもっと増えると思う。健康寿命を延ばすための方策として、閉じこもりの高齢者に対する高齢者いきいき活動ポイント事業は効果があると思う。地区、学区の中で、かなりの動員をかけているので、ご心配いただいているようなことはなく頑張っている。

〔東川会長〕

頼もしい話を聞かせていただいた。確かに健康寿命の順位というところだけ見ていくと46位であり、危機的な意識を持ってしまいが、今回の調査あたりからすると、別紙1にあるとおり、23年度から確実に中高年のスポーツ実施率というのは、上がってきているので、近いうちには健康寿命が上がってくるのではないかなと思っている。

そういう面からすると、先ほど杉野委員からもあったとおり、身近に運動が出来る場所の整備も必要になってくるのではないかと感じた。

〔本川委員〕

先ほど、鍋島委員や山本課長からも紹介があったが、運動習慣を身に着けるのは、やはり幼児の時である。幼児から、スポーツという感覚ではなく、運動遊びという形から入っていこうというアクティブチャイルドプログラムを日本スポーツ協会がやっている。このアクティブチャイルドプログラムの指導員を養成する前段として推進活動がある。これを受けた人の中から指導員を養成することとしている。こうしたものも少し活用して、例えば、スポーツ推進委員や幼稚園の先生とか、ありとあらゆる子供達と接する方が受ければ、自身の活動を見直すひとつの手になるのではないかなと思う。ちなみに今年度12月15日広島市スポーツ少年団が、アクティブチャイルドプログラム活動を東区スポーツセンターで日本スポーツ協会から講師を招いて実施することとしている。昨年度もあったが、広島市スポーツ少年団も約4,000人の指導者がいるが、なかなか皆に徹底できていなかった。日本スポーツ協会がインターネットでの募集しかしていなかったため、昨年度は、そこになかなか辿り着いていないということがあったので、今年度は、広島市スポーツ少年団も各指導者に個別に徹底していこうと思っており、具体的に申込方法を伝えていこうと今考えている。是非こういったものも活用していただければ、非常にいいのではないかなと思う。

〔東川会長〕

指導者養成というところで、有効な企画ではないかなと思うので、事務局でも検討していただきたい。

〔山中委員〕

3点ほど教えていただきたい。1つ目が、広島市スポーツイベントボランティア登録・派遣についてである。これだけ国際大会をやることになると、色々なボランティアの育成が必要になってくると思うが、今年度派遣事業や育成についてどのようなことを取り組んでいくのか教えてもらいたい。

それから、2つ目が、スポーツ庁が中学校の部活動について週2回休みを取ろうという指針を出したが、どのように浸透させるのか。現場では、もっとやりたいという生徒の声を尊重したいという声もあれば、ブラック部活的なことになりかねないので休みをちゃんと取ろうという意見もあるし、様々な意見が取材する中であった。現時点の市の考え方を教えてもらいたい。

最後、オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致の件であるが、姫路はフランスの柔道を受け入れることになったが、誘致に成功したのは、広島に近いからという情報を聞いた。ということは、来日する際には広島に来たいというニーズがあるということになるが、これはスポーツだけの話ではなく観光や平和であったりすると思うが、事前合宿誘致に合わせて、これらを横断的に取り組む予定があるのか教えてもらいたい。

〔スポーツ協会事務局〕

広島市スポーツイベントボランティアについてであるが、広島東洋カープ、サンフレッチェ広島への対応が中心になっている。これに合わせて、現在、ボランティア自身で運営活動を考えていこうということで、運営委員会等の開催もしている。また、育成の取り組みとしては、その中で、ボランティア自身が意見を出し、テーマを決めて、研修会等も実施している。現在登録人数については、294名で、年2回市民と市政やスポーツ協会のホームページを活用して、広報をしている。また、広島市域にある14の大学にもチラシを送付し、大学生の登録も若干増えてきている状況である。

〔指導第二課長〕

部活動の休養日等については、スポーツ庁からガイドラインが出ており、その中で、週2日間休養日を設けるように指針が示されている。このことの本市の対応については、教育委員会関係者、学校関係者、中体連、高体連の関係者からなる意見交換会を今年度開催し、その中で多様なご意見をいただく中で、本市の方針をまとめていきたいと考えている。

〔スポーツ振興課長〕

オリンピック・パラリンピック事前合宿の関連であるが、事前合宿のみならず、オリンピック・パラリンピックが日本で開催される機会を捉えて、是非とも広島に来て平和公園等を訪れ、被爆の実相を知っていただきたいと思っている。今、具体的なことを言うことはできないが、平和関連の部署とオリンピックで来日された選手等の来広について取り組んでいきたいと考えている。

〔鍋島委員〕

障害者の課題として、スポーツ大会に出場するといった予算は計上されているが、身体障害者が400万人、精神障害者が400万人、知的障害者が100万人近くいる中で、そういった方達がスポーツをして楽しむために、スポーツ施設に行ってもバリアフリーがされていないので、なかなか施設に入れない。障害者差別解消法もスタートしているわけだから、行政においても改修する際には、障害者も意識した改修を考えてもらいたい。

もう1点は、西飛行場跡地のスポーツ施設の整備であるが、市がやりたい施設をつくるというより、今、社会でこういうニーズがあるから、こういった施設を作るという流れが必要である。出来るだけ声を広く聞いてもらわないと、先ほどの話があった学校も部活を休む日を設けることになっているので、空きが出来るような施設をつくってもいけないし、ビックアーチやスタジアムを補完するような施設では、新しい施設を作るにあたって問題がある。市民が自由に使えるような施設が出来ないかなと思う。アーバンスポーツをやるとか、芝があるとすれば、ペタンクとかマレットゴルフとか、高齢者の方が日常的にも出入りできる環境とか、やはりそういったものを考える必要がある。野球のグラウンドを作るのはちょっと違うのではないかなと思う。

〔スポーツ振興課長〕

多目的スポーツ広場については、最初の説明が少し抜けていたかもしれないが、ソフトボール、少年野球、サッカーについては、やる場所がないという要望を多数いただいております、それを踏まえて、計画させていただいた経緯がある。整備後の利用については、多くの方の利用があると見込んでいる。

〔東川会長〕

新設の施設、改修時期にある施設があるように説明があったが、先ほど鍋島委員からあった意見も踏まえながら、杉野委員の発言にもあったように、皆が気楽に運動やスポーツに親しんでいただけるような環境づくりも押さえていただきたいと思う。

それでは、時間も迫ってきたようなので、委員の皆さま、オブザーバーの皆さまほうからご意見、ご提案がありましたら、次年度の予算編成に反映させていきたいと考えているので、8月中には、事務局のスポーツ振興課を送っていただきたい。